



ネクスト・ソサエティ④(2002年90歳) (延長線上にないゴール)

6月④のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2024年6月21日(金)

次の成功は今の延長線上にはない(ユニクロ)。

現実の延長線上にゴールを置いてはならない。新しい路線は次に来る最も重要な新しい視点の探究でなければならない(惰性、大企業病を潰す視点)。

これからは都市社会の文明化が、先進国にとって最重要課題となる。

しかし、政府や企業では、都市社会が必要とするコミュニティを生み出すことはできない。それは、政府でも企業でもない存在、すなわち非営利の組織 NPO の役割となる。

第一次大戦前年のころ、先進国において都市には人口の 5%、20 人に 1 人しか住んでいなかった。残りは田舎に住んでいた。しかし、今日ではあらゆる先進国において、田舎の人口は 5% を下回る。途上国でも人口が増えているのは都市である。農業国である中国やインドでさえ、都市の人口が増えている。

途上国では、仕事や住まいをあてがなくとも都市に出ようと躍起である。従来の人口構造の変化、牧畜と農業に携わる田舎への人口の集中は 1 万年以来のことである。これに対し、今起きている都市への集中の変化はただか半世紀の間に起きている。このような都市への人口流入はいずれの国においてもこの新しい人間環境としての都市社会の行方であり、そこにおけるコミュニティの発展いかにかかっている。

知識社会においては、企業は生計の糧を得る場所ではあっても、生活と人生を築く場所ではあり得ない。

しかし、人に対して物質的な成功を仕事上の自己実現として与えられる組織社会が必要である。また、そうでなければならない。しかし、それだけではコミュニティを手にするにはできない。

それができなければ、それはあくまでも機能を基盤とする一つの社会であるにすぎない。

その答えは何であるのか、NPO が答えである。

ここにおいて、社会セクター、すなわち非政府であり、非営利でもある NPO だけが、今日必要とされている市民にとってのコミュニティ、特に先進社会の中核となりつつある高度の教育を受けた知識労働者にとって、市民性の回復を実現し得る唯一のコミュニティを創造することができる。